

新聞圖會

第十七号

大阪能優 実川延若道頓堀筑後芝居ニ鏡山
 岩藤の役をささんとせし小堂丸らんと病子
 羅り桃谷やも別荘ニ出養生中五月廿三日午前
 三時強盗未つて枕辺ニ立ち金子渡克べくやと
 白刃をさし付る流石ハ立者の
 座頭株少も騒がけ空惚つて入
 その日又惚て出つ有合小遣
 六十余円と金銀をちりたぬ
 時計甚入の類も残さげ之を
 興へて聊慰る色あり是常
 使と氣を事し強勇大膽を
 真似し徳あらん々全快の上
 其事以作り入新狂言を
 發明せ尤一志海の大入あらん
 と其全愈を祈るそのこと
 あり川島邊うこまお
 都島遊人



恋
 あり
 おま
 え
 魚

